

百人町教会週報

2018 年 5 月 13 日

主日礼拝順序

司会 小川ひとみ
証詞 榎本征子
奏楽 泉谷五十鈴
受付 古野明美

前奏 Prelude

讃美 Hymn **206 番**(七日の旅路)

聖書 Scripture **ルカによる福音書 18 章 15-17 節**(新 144p)

祈祷 Prayer

主の祈り B Lord's Prayer B **93-5-B**

献金 Offering

献金の祈り Offering Prayer

報告 Report

讃美 Hymn **56 番**(主よ、いのちのパンをさき)

証詞 Testimony 「**なぜ百人町教会へ?**」

祈祷 Prayer

讃美 Hymn **448 番**(お招きに応えました)

昼食 Commensal

応答 Response

祈祷 Prayer

後奏 Postlude *讃美歌の時は座ったままでも結構です。

今年の聖句

『わたしはすべての人にわが霊を注ぐ。あなたたちの息子や娘は預言し、老人は夢を見、若者は幻を見る。』ヨエル三の一

今週の聖句

『しかし、イエスは乳飲み子たちを呼び寄せて言われた。「子供たちをわたしのところに来てさせなさい。妨げてはならない。神の国はこのようである。』ルカ一八の一六

※本日の集会

韓国語講座 礼拝後

※今週の集会

自然農の会 5月15日(火)午前9時~昼食 ASOハウス

聖書研究会 5月16日(水)午後7時 夕食~ 石原氏宅

聖書 サムエル記下 23 章 担当 町田龍次氏

※来週の集会

主日礼拝 5月20日(日)午前10時半 証詞 賈 晶淳氏

家庭集会 5月25日(金)正午 昼食~ 牧師館

聖書 創世記 39 章 担当 小池恵子氏

読書 須賀敦子著『コルシア書店の仲間たち』担当長谷川氏

※案内と消息

前中榮子氏二期会演奏会出演 6月1日(金)午後6時半

大和田伝承ホール(渋谷) チケット 3500 円

※特別献金

榎本征子氏(誕生日感謝)

宮崎亮子氏(教会のために)

※先週の集会報告

	女	子	男	計	席上献金
主日礼拝	5/6	16	5	21	20,800
自然農の会	5/15				
聖書研究会	5/16				
家庭集会	5/25				

次	司会	証詞	奏楽	受付・献金	会員日誌
週	佐藤かよ子・賈 晶淳	西堂いづみ・町田龍次	上田美鈴		

集会場所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 1-34-13 東京家政専門学校 2 階 <http://www.hyakunincho-church.com> 携 090(6176)5403

連絡先 〒162-0066 新宿区市谷台町 14-1 塚越 TKビル 701 賈 晶淳(カ ジョンス) Tel/Fax 03(3351)0807 E-mail roba@chic.ocn.ne.jp

◇世話人会報告◇

記録 新谷照子

出席者: 賈牧師、雨宮(司会)、榎本、小島、佐藤、新谷

1. 4月の報告と反省

- 各委員会の組織とお知らせ(5月中)
- 「ろば」編集委員会;担当1人体制で編集する。連絡係は榎本。
- CS委員会;夏季集会は7月21日(土)、22日(日)にASOハウスで実施。イースター遠足に子ども達を誘う。

2. 5月の予定

- アジア祈祷日(13日) 席上献金をアジア基金に入れる。
- 東京教区総会(29日)賈牧師と雨宮が出席

3. 6月の証詞担当

3日 調整中 10日 調整中 17日 賈 25日 調整中

4. その他

- 百人町教会連絡網;何かあった時には世話人から連絡する。
- 諸活動の提案;教会員全員がお互いに困った時や助けが必要な時に支えられるような支援体制を作る。
- 創立50年について;証詞や「ろば」を通して百人町とのかかわり(歴史や今後の夢など)を語ってもらう。

◆世話人会からのお願い◆

いつも百人町教会を覚え、支えて下さりありがとうございます。今、教会の献金には次のような内容があります。

- 席上献金(礼拝時)
- 月約献金(毎月決めた額、現在28口)
- 特別献金(感謝、イースター、夏期、クリスマス献金など)
- 牧師館献金(牧師館の住宅費は、経常会計と牧師館献金と賈先生の管理人としての仕事で賄っています。現在13口)
- 震災献金(礼拝時に古野さんが声掛けをして下さい。)

この中で特に、「月約献金」は教会維持の基礎となるものですから、まだの方はできましたらぜひご協力をお願いします。

◇会員日誌◇

空閑 幸

この4月から、研修派遣という形で区役所を離れ、2年間、児童相談所で児童福祉司として働くことになりました。

ようやく研修期間を終えて今はデビューしたてなのですが、予想通り非常に精神的負荷がかかる業務内容で、子どもの命がかかっているという緊張感と激しい人間関係の摩擦に何とか気持ちを保つことに精一杯な日々を送っています。

前職では8年間、病院で医療ソーシャルワーカーとして福祉の相談業務をしていましたが、同じ福祉業界でもまるで異業種のように感じられる程、児童相談所は違う世界でした。まず、スタートラインが相手との関係性が破綻しているところからの始まりなので、信頼関係など築けるはずもなく…まるで日々の業務のなかで日本社会の縮図を垣間見ているような感覚です。

思うことはただひとつ、一人でも多くの子どもが幸せに暮らせますように。子ども達には何の罪もないのですから。